

福島からの訴え

●武藤類子さん

(ハイロアクション福島原発四

〇周年実行委員会)

きょうは福島県内から、また避難先から、バスを連ねて、たくさん仲間と一緒に、やってきました。初めて集会やデモに参加する人も、たくさんいます。それでも福島原発で起きた悲しみを伝えよう、私たちこそが「原発いらない」の声をあげようと、声を掛けあい、誘いあつてやってきました。

◇ ◇ ◇

福島はとても美しいところで、東に紺碧の太平洋を望む浜通り。モモ・梨・リンゴと果物の宝庫の中通り。猪苗代湖と磐梯山の周りに黄金色の稲穂が垂れる会津平野。その向こうを、深い山々が縁取っています。山は青く、水は清らかな、私たちの故郷です。

原発事故を境に、その風景に、目には見えない放射能が降り注ぎ、私たちは被ばく者となりました。大混乱の中で、私たちは様々なことが起こりました。すばやく張り巡らされた安全キャンペーンと不安の狭間で、引き裂かれていく人と人と

のつながり。地域で、職場で、学校で、家庭の中で、どれだけの人が悩み、悲しんだことでしょうか。

毎日、毎日、否応なく迫られる決断。逃げる、逃げない。子どもにマスクをさせる、させない。洗濯物を外に干す、干さない。何かにも申す、黙る。様々な苦渋の選択がありました。

◇ ◇ ◇

そしていま、次第に鮮明になつてきたのは、事実は隠されるのだ、国は国民を守らないのだ、福島県民は核の実験材料にされるのだ、大きな犠牲の上になお原発を推進しようとする勢力があるのだ、私たちは捨てられたのだ、ということ。口をつく言葉は、私たちをばかにするな、私たちの命を奪うな、です。福島県民はいま、怒りと悲しみの中から、静かに立ち上がっています。子どもたちを守るようと、母父が、おじいちゃん、おばあちゃんが。自分たちの未来を奪われまいと若い世代が。土地を汚された絶望の中から、農民が。放射能による新たな差別と分断を生むまいと、障がいを持った人々が。

◇ ◇ ◇

私たちは静かに怒りを燃や

す、東北の鬼です。私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島土地に留まり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合っているアクションに、注目してください。支え合つて生きていこうと思つていきます。私たちとつながってください。私たちが起きているアクションに、注目してください。政府交渉、疎開、避難、除染、原発と放射能についての学び。そしてどこにでも出かけて、福島を語ります。思いをつく限りの、あらゆることに取り組んでいきます。私たちが助けてください。どうか福島を忘れないでください。

◇ ◇ ◇

もう一つ、お話ししたいことがあります。それは、私たち自身の生き方、暮らし方です。私たちは何気なく差し込むコンセントの向こう側を想像しなければなりません。差別と犠牲の上になり立っていることに、思いをはせなければなりません。原発は、その向こうにあるのです。

人類は、地球に生きる、ただ一種類の生き物にすぎません。自らの種族の未来を奪う生き物が、他にいないのでしょうか。私は、この地球という美しい星と調和した、まっとうな生き物として生きています。ささやかでも、

エネルギーを大事に使い、工夫に満ちた、豊かで創造的な暮らしを紡いでいきたいです。どうしたら原発と対極にある新しい世界を作っていけるのか。だれにも明確な答えは分かりません。

でき得ることは、誰かが決めたことに従うのではなく、一人一人が、本心に、本気で、自分の頭で考え、確かに目を見開き、自分ができることを決断し、行動することだと思つています。

私たちは誰でも、変わる勇気を持つています。奪われてきた自信を取り戻しましょう。原発をなお進めようとする力が垂直にそびえる壁ならば、限りなく横に広がりつながら続けていくことが、私たちの力です。たつたいま、隣にいる人と、そつと手をつないでみてください。見つけ合い、お互いの辛さを聞きあいましょう。涙と怒りを許しあいましょう。

私たち一人一人の、背負つていかなければならない荷物が、途方もなく重く、道のりがどんなに過酷であっても、目をそらさずに支えあい、軽やかに、明らかに、生き延びていきたいと思います。

事務局より

▼九月一九日の明治公園には、たくさんの方々が集まっていたいただきました。本当にありがとうございます。せつかく来ていただいたのに、集会場に入れなかった方、デモ行進の出発に二時間以上待った方など、申し訳ありませんでした▼集会参加者は約六万人です。これだけ多くの人々が「原発いらない」の声を上げたことは、日本の政治家たちに大きなプレッシャーを与えたはずですよ▼山本太郎さんが訴えましたが、自分の選挙区の国会議員に「あなたは原発反対？賛成？どっち」と突きつけていくことが今後は重要になると思えます▼国会議員に対するプレッシャーの総まとめが、一〇〇〇万人署名です。日本の総人口は一億三〇〇〇万人。人口一三分の一の署名が実現すれば、国会議員は無視することはできません。皆さんのご協力をお願いします。